

第17編 教育委員会
(生涯学習部)

生涯学習課

1 市民学園講座

生涯学習機会の提供と芸術文化の振興を図るため、生涯学習センター等において各種講座を開催している。

(1) ライフステージ講座

- ア 子育て対象 (ア) 子育て応援プログラム：乳幼児を持つ家庭等のための講座（18回）
- イ 子ども対象 (ア) 子ども体験隊：4～6年生対象とした体験学習講座（13回）
(イ) 子どもチャレンジ：夏・冬休み期間を中心に行う体験や工作の講座（5回）
- ウ 高齢者対象 (ア) わくわくセカンドライフ：陶芸、料理、健康、仲間づくりのための講座等（20回）
- エ 女性対象 (ア) いきいき女性講座：手芸、料理、健康、仲間づくりのための講座等（21回）
- オ 釧路学講座 (ア) 釧路学教養講座：道東地方の自然・歴史をテーマとした体験学習講座（15回）
- カ ふるさと講座(ア) ふるさと講座：釧路の歴史・産業・自然・食・観光等を手軽に学ぶ講座（11回）

(2) くしろ市民大学

教育機関、関係団体、企業と連携し、市民としての意識を高揚させ、学習成果をまちづくりへ活用することを念頭に置いた、幅広いテーマの講座（13回）

(3) 共催事業

高等教育機関・専門研究機関・各種団体・関係官庁・庁内等と連携した講座、事業の開催（10回）

2 学習情報提供

- (1) 「広報くしろ」等各種媒体の活用
- (2) 釧路市生涯学習ハンドブックの活用
- (3) 釧路市生涯学習人材バンク制度の活用
- (4) 釧路市生涯学習まちづくり出前講座の実施
- (5) 釧路市文化財マップの活用
- (6) コミュニティFM放送の活用

3 社会教育の推進

(1) 釧路市社会教育推進計画の推進

本市における社会教育行政の指針である社会教育推進計画の進行管理を行う。

(2) 釧路市社会教育委員

社会教育に関する諸計画の立案を行い、定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じて意見を述べるとともに、そのための研究・調査を行う組織として、20名以内の学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者及び学識経験者で構成し、定例会議を年2回、釧路市社会教育推進計画評価会議を年1回開催している。

(3) 釧路市社会教育施設等運営審議会

社会教育施設等の管理運営に関する諸事項を審議するため、15人以内の学識経験者で審議会を構成し、定例会議を年2回開催している。

4 社会教育事業

(1) くしろ20歳のつどい

新しく成人になった青年男女の門出を祝う集いを開催している。

- ア 日 時 平成29年1月8日 午後2時～（釧路地区）
午後1時～（阿寒地区、音別地区）
- イ 場 所 釧路市民文化会館、釧路市阿寒町公民館、釧路市音別町文化会館
- ウ 該当者 総数1,628人（男877人、女751人）

5 釧路市文化芸術振興計画の推進

本市における文化芸術振興の指針である文化芸術振興計画の進行管理を行う。

6 釧路市子ども読書活動推進計画の推進

本市における子ども読書活動の指針である子ども読書活動推進計画の進行管理を行う。

7 釧路市文化賞・文化奨励賞

本市の芸術（音楽、文学、美術、芸能）、科学（自然科学、人文科学）の各分野において、その発展に著しく貢献した個人または団体を顕彰している。毎年自薦、他薦のあった者を文化賞審議会に諮り、その結果に基づき教育委員会が受賞者を決定する。

これまでの受賞者数は、文化賞が49名、11団体、文化奨励賞が44名、21団体となっている。

◎近年の受賞者

年 度	釧 路 市 文 化 賞	釧 路 市 文 化 奨 励 賞
26	藤 戸 竹 喜 (芸 術) 和 島 忠 治 (芸 術)	該 当 な し
27	中 江 紀 洋 (芸 術)	中 野 国 韻 (芸 術)
28	上 林 リ ツ (芸 術) 瀧 口 政 満 (芸 術)	該 当 な し

8 国・道・市指定文化財

本市に所在する貴重な文化財について、釧路市文化財保護審議会に諮り、その保護を推進している。

分 類	指定	名 称	所 在 地 等	指 定 年 月 日	
有 文 化 財	道	円空作観音像	釧路市米町 厳島神社所蔵	昭和52年3月11日	
		市	鳥取村本籍簿	釧路市所蔵	昭和50年12月12日
			佐野家文書	釧路市教育委員会生涯学習課所蔵	昭和50年12月12日
			釧路新聞	釧路市教育委員会生涯学習課所蔵	昭和50年12月12日
			永久保秀二朗日誌	市立釧路図書館所蔵	昭和50年12月12日
			星兜（残欠）	釧路市立博物館所蔵	昭和50年12月12日
			市河文書	釧路市所蔵	昭和51年12月9日
重 要 無 形 民 俗 文 化 財	国	アイヌ古式舞踊	春採アイヌ古式舞踊釧路リムセ保存会 阿寒アイヌ民族文化保存会	昭和59年1月21日	
無形民俗文化財	市	紀ノ丘神楽	紀ノ丘神楽保存会	昭和61年10月5日	
史 跡	国	釧路川流域チャシ跡群			
		モシリヤチャシ跡	釧路市城山1-141-1ほか (9,850㎡)	昭和10年12月24日	
		ハルトルチャランケチャシ跡	釧路市鶴ヶ岱3-35-2ほか (11,742㎡)	昭和10年12月24日	
		春採台地竪穴群	釧路市春湖台35 (17,684㎡)	昭和10年12月24日	
		東釧路貝塚	釧路市貝塚1-11-1ほか (6,092㎡)	昭和45年7月22日	
		北斗遺跡	釧路市北斗4-1 (233,471㎡)	昭和52年7月14日	
		市	三津浦古谷遺跡	釧路市三津浦10 (39,000㎡)	昭和50年12月12日
特 別 天 然 記 念 物	国	タンチョウ	主な生息地 北海道	昭和27年3月29日	
		阿寒湖のマリモ	釧路市阿寒町	昭和27年3月29日	
天 然 記 念 物	国	春採湖ヒブナ生息地	釧路市春採 (36.1ha)	昭和12年12月21日	
		釧路湿原	釧路町・標茶町・鶴居村 (5,011.5ha)	昭和42年7月6日	
		クマガラ	主な生息地 北海道	昭和40年5月12日	
		オオワシ	主な生息地 北海道ほか	昭和45年1月22日	
		オジロワシ	主な生息地 北海道ほか	昭和45年1月22日	
		エゾシマフクロウ	主な生息地 北海道	昭和46年5月19日	

市	キタサンショウウオ	主な生息地 釧路湿原	昭和50年12月12日
	砂岩脈 (サト・ストーン・ダイク)	釧路市興津3(興津海岸)	昭和50年12月12日
	谷地坊主(ヤチボウズ)	釧路市丹頂鶴自然公園内 (7,000m ²)	昭和50年12月12日

9 基金

(1) 釧路市文化振興基金

市民文化及び社会教育の育成向上並びに社会教育施設の整備充実を図るため設置されている。
平成29年3月末現在、基金の元金は6,820千円。

(2) 釧路市カケハシ青少年育成基金

青少年の文化及びスポーツ育成の向上を図るため設置されている。
平成29年3月末現在、基金の元金は24,161千円。

(3) 市立釧路図書館資料整備基金

図書館資料の整備及び充実を図るため設置されている。
平成29年3月末現在、基金の元金は12,410千円。

10 釧路市文化振興条例による助成

文化振興条例により、本市の文化及び社会教育の振興に寄与する文化活動を行う団体及び個人等に対し助成を行い、市民文化及び社会教育の育成と向上を図っている。

助成金を交付することができるのは次のような場合である。

- (1) 本市の文化及び社会教育の振興に著しく寄与すると認められる発表会、講演会、展覧会及び展示会（以下「発表会等」という）を開催するとき、又は出版物の刊行をするとき。
- (2) 市内で全道的な規模以上の発表会等を開催するとき。
- (3) 全市的な規模で総合的な発表会等を開催するとき。
- (4) 全市的な規模で児童生徒の発表会等を開催するとき。
- (5) 児童生徒が予選等を経て、全道的な規模以上の発表会等に出場するとき。
- (6) その他教育委員会が文化及び社会教育の振興のため特に意義があると認めた発表会等、研修会若しくは会議を開催し、又はこれらに出場し、若しくは参加するとき。

11 地域史料

(1) 地域史料の収集と保存

恒常的に地域史料の収集と保存をし、将来の市史編さん事業の活用に備えている。

(2) 地域史料調査研究専門委員会

史料の収集・保存・研究、釧路市史の調査・研究、出版物の編さんについて市内在住の学識経験者による専門委員に意見を伺いながら、地域史研究の充実を図っている。

(3) 太平洋炭砒資料室の開設

平成17年5月9日に城山小学校の余裕教室を利用し、太平洋炭砒82年の歩みを紹介する写真パネル・文献・労働組合資料などを公開する「太平洋炭砒資料室」を開設した。

(4) 地域史料の活用と刊行物の発刊

ア 釧路叢書の刊行

釧路叢書は、釧路市周辺の自然科学、社会科学、文化、産業の各分野にわたる学術的、史的資料を収集整理し、体系的に読者に提供すべく昭和35年から刊行しており、平成28年度に発刊した阿寒湖畔地域の自然と文化を主題とした叢書と合わせ、これまでに37巻と別冊2巻を刊行している。

イ 釧路新書の刊行

釧路新書は釧路地域に関するテーマをより平易に、親しみやすい内容表現で読者に提供しようとする目的をもって、昭和52年度より刊行を始めたものである。これまでに33巻、別冊1巻を刊行している。

12 釧路市交流プラザさいわい

釧路市交流プラザさいわいは、市民の学習活動を奨励し、文化、教養及び福祉の向上を図るとともに、男女が共に参画する社会の形成に寄与することを目的として設置されている。

(1) 施設の概要

- ア 所在地 釧路市幸町9丁目1番地
- イ 開設年月日 平成13年4月1日（旧福祉会館 昭和46年7月、旧婦人会館 昭和54年4月開館）
- ウ 主な施設 会議室、大ホール、小ホール、多目的ホール、和室、音楽室、料理教室、華道室、茶道室、遊戯室、絵画室、彫塑室

(2) 施設の管理運営 平成18年4月1日から指定管理者制度を導入（耐震改修等の期間を除く。）

(3) 年度別利用状況

年 度	26	27	28
件 数	8,450件	8,827件	9,144件
人 数	114,591人	118,224人	114,668人

13 釧路市民文化会館

釧路市民文化会館は、市民の文化活動などの発表の場を提供するとともに、優れた文化、芸術等の鑑賞の機会を設け、市民文化の向上に資することを目的に設置され、講演会、コンサート、展示会、式典等に利用されている。

(1) 施設の概要

- ア 所在地 釧路市治水町12番10号
- イ 開館年月日 昭和54年11月3日
- ウ 主な施設 大ホール、小ホール、楽屋、展示ホール、喫茶食堂、売店、練習室、会議室

(2) 施設の管理運営 平成18年4月1日から指定管理者制度を導入

(3) 年度別利用状況

年 度	26	27	28
件 数	1,871件	1,769件	1,879件
人 数	159,783人	157,248人	161,011人

14 釧路市生涯学習センター

釧路市生涯学習センター「まなぼっと幣舞」は、生涯学習のための複合施設で、市民の様々な学習文化活動など生涯学習の場として利用できるほか、生涯学習に関する情報の提供や相談も受け付けている。

また、多様な機能を活用した展示会、各種コンサート、各種講座や展示会等、市民団体の発表の場として利用される他、国内外の優れた芸術家を招聘した舞台芸術、コンサート等、芸術鑑賞事業等が開催されている。

(1) 施設の概要

- ア 所在地 釧路市幣舞町4番28号
- イ 開館年月日 平成4年11月1日
- ウ 主な施設 大ホール、楽屋、リハーサル室、市民展示ホール、多目的ホール、学習室、会議室、和室、茶室、工芸・音楽・アート・クッキングスタジオ、ハイビジョンシアター

(2) 施設の管理運営 平成18年4月1日から指定管理者制度を導入

(3) 年度別利用状況

年 度	26	27	28
件 数	6,501件	6,403件	6,226件
人 数	211,217人	216,052人	197,311人

※釧路市立美術館利用者数を含まない。

15 釧路市立美術館

平成12年度より釧路市生涯学習センター内のアートギャラリーを「釧路市立美術館」に変更し、美術作品の鑑賞機会の提供・普及を目的として展覧会を開催している。

特別展をはじめ、市所蔵作品を中心としたコレクション展や、地元作家による釧路郷土作家展など、年間を通して展覧会を開催できるよう企画し、鑑賞機会の充実を図っている。

(1) 展覧会事業

ア 特別展 「魔法の美術館」	平成28年 7月 2日～9月 4日
イ 〃 「歌川広重 二つの東海道五拾三次 保永堂版と丸清版」	平成28年 9月17日～10月23日
ウ 〃 「池田良二展」	平成28年10月29日～11月27日
エ コレクション展「物語の世界～増田誠のギリシャ神話と旧約聖書」展	平成28年 4月 2日～ 4月24日
オ 〃 「ペキタと探検！くしろアートの海」展	平成28年 4月29日～ 6月19日
カ 〃 「昭和天皇行幸80周年美術と博物資料で迎える釧路行幸」	平成28年12月 3日～12月25日
キ 〃 「美術館に初詣 とり大集合！」	平成29年 1月 7日～ 2月12日
ク 〃 「あの日・あの場所 描かれた釧路の風景」	平成29年 2月18日～ 3月26日
ケ 第91回道展第61回釧路移動展	平成28年12月 6日～12月11日
コ 第64回釧路郷土作家展（前期：美術）	平成29年 2月18日～ 2月26日
〃 （後期：書道・写真）	平成29年 3月 4日～ 3月12日

(2) 展覧会関連事業

- ア 講演会、作品解説、作品講評、ワークショップ
- イ 図録の出版

(3) 年度別実施結果

	平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	特別展	コレクション展	その他	特別展	コレクション展	その他	特別展	コレクション展	その他
件数	3件	5件	3件	4件	4件	3件	3件	5件	3件
人数 (合計)	9,024人	4,244人	3,798人	12,627人	3,271人	3,917人	27,296人	4,654人	2,935人
	(17,066人)			(19,815人)			(34,885人)		

(4) 連携・協力

ア アートギャラリー協力会事業

市で主催する展覧会や関連事業の開催協力並びに研修旅行等の各種事業を行っており、個人・法人会員を募集している。

また、道立釧路芸術館で開催される特別展も鑑賞の対象になっており、鑑賞機会の充実を図っている。

16 図書館

図書館のサービスは、本館と分館（釧路市西部地区図書館、釧路市東部地区図書館、釧路市中部地区図書館、音別町ふれあい図書館）、分室（阿寒町公民館図書室）、図書館バス2台で行っており、図書の貸出・返却は、これらのどこからでも行える。

また、平成19年度から図書館運営システムがインターネットに接続されたことにより、図書館ホームページ上で蔵書の検索、予約などを行うことができるようになった。

このほか、資料の調査・相談に応じるレファレンスサービスや読書普及活動事業として、「読み聞かせ」「ブックトーク」などを本館、分館、分室、学校などで行っている。

なお、平成29年度には、北大通10丁目の民間ビル内に開設する新図書館の整備が完了し、名称を市立釧路図書館から釧路市中央図書館と改め、平成30年2月の開館を予定しており、利用者の安全安心の確保、充実した図書館サービスを提供することで、更なる市民サービスの向上を図っていく。

(1) 市立釧路図書館（本館）

- ア 所在地 釧路市幣舞町4番6号
- イ 開館年月日 昭和48年1月25日
- ウ 施設の管理運営 平成20年4月1日から指定管理者制度を導入

(2) 釧路市西部地区図書館（分館）

- ア 所在地 釧路市鳥取北8丁目3番10号
- イ 開館年月日 平成2年8月1日
- ウ 施設の管理運営 平成28年4月1日から本館指定管理者による管理運営を開始

(3) 釧路市東部地区図書館（分館）

- ア 所在地 釧路市益浦1丁目20番20号
- イ 開館年月日 平成5年10月1日
- ウ 施設の管理運営 平成28年4月1日から本館指定管理者による管理運営を開始

(4) 釧路市中部地区図書館（分館）

- ア 所在地 釧路市愛国191番地5511
- イ 開館年月日 平成12年8月1日
- ウ 施設の管理運営 平成28年4月1日から本館指定管理者による管理運営を開始

(5) 音別町ふれあい図書館（分館）

- ア 所在地 釧路市音別町朝日2丁目81番地
- イ 開館年月日 平成4年7月1日

(6) 阿寒町公民館図書室（分室）

- ア 所在地 釧路市阿寒町中央2丁目4番1号
- イ 開館年月日 昭和62年3月25日

(7) 図書館利用状況

ア 蔵書数（冊）

区分	本館	西部	東部	中部	音別	阿寒	合計
26年度	288,514	59,579	53,227	58,565	32,237	52,111	544,233
27年度	291,701	60,265	53,988	59,581	31,728	53,053	550,316
28年度	294,146	60,253	54,583	59,576	31,274	52,969	552,801

イ 利用者数（人）

区分	本館	西部	東部	中部	音別	阿寒	合計
26年度	107,797	26,598	14,461	33,752	5,716	7,947	196,271
27年度	107,753	25,810	15,386	32,692	5,404	7,173	194,218
28年度	95,177	26,888	15,306	32,624	4,922	6,956	181,873

ウ 貸出冊数（冊）

区分	本館	西部	東部	中部	音別	阿寒	合計
26年度	348,638	119,885	64,451	143,962	16,778	34,954	728,668
27年度	344,301	114,909	62,902	138,467	16,862	33,207	710,648
28年度	310,431	111,163	63,959	139,182	15,737	32,864	673,336

※貸出冊数は、図書貸出冊数+CD貸出枚数 28年度 662,495（冊）+10,841（枚）=673,336（合計）

エ レファレンス件数（件）

年度	26	27	28
件数	24,233	26,727	30,275

17 釧路市こども遊学館

次代を担う子どもたちが、遊びや学び等多様な体験を通して豊かな感性、創造力及び知的好奇心を高め、また、各世代が子どものために協働し、互いの交流を深めながら、科学知識の普及啓発を図ることを目的としている。

(1) 施設の内容

- ア 所在地 釧路市幸町10丁目2番地
- イ 開設年月日 平成17年7月1日
- ウ 主な施設 全天候型広場、遊びの広場、展示室、プラネタリウム室、実験室、事務室、会議室、視聴覚室等

(2) 施設の管理運営 平成17年7月1日から指定管理者制度を導入

(3) 年度別入館者数

年 度	26	27	28
人数（人）	96,629	102,632	102,952

18 アイヌ文化の振興

アイヌ民族の歴史と文化に関しては、その理解の促進を図るとともに、豊かで優れた伝統芸能の伝承活動を支援し、アイヌ文化の保存・伝承に努めている。さらにアイヌ文化を振興し後世に繋いでいくため、平成28年度からアイヌの伝統的生活空間（イオル）の再生事業の展開に向け調査、関係団体等と検討・調整を開始し、事業展開計画書を平成28年12月に（公財）アイヌ文化振興・研究推進機構へ提出した。

ス ポ ー ツ 課

1 スポーツ都市宣言

釧路市並びに釧路市教育委員会は、平成元年6月1日「スポーツ都市宣言」を行った。

2 コミュニティスポーツ活動普及振興

地域住民組織を基盤とした地域スポーツ集団づくりを目的として、小学校通学区域ごとに「地域スポーツ推進協議会」が組織されている。この推進組織を母体に「総合型地域スポーツクラブ」への移行を図り、地域住民が各自に適したスポーツ活動に参加できるよう自主的活動を促進している。

(1) 小・中学校屋内体育館の定期的開放によるスポーツ活動の場の提供

(2) 地区スポーツ教室の開設

軽スポーツ、レクリエーションを中心としたスポーツ教室を地区ごとに実施している。

(3) 地域スポーツ大会の開催

地区間のコミュニケーションと体力づくりを目的として、定期的な軽スポーツ大会を開催している。

(4) 地区指導者の養成・配置

釧路市地域スポーツリーダーとしてスポーツ指導員を養成・委嘱し、地域スポーツ行事の開催、地域住民の積極的かつ自主的スポーツ活動に関する意識の高揚を図る。

3 スポーツを普及するための主な事業

(1) 市民健康サークル等の育成

婦人健康サークル、高齢者サークル等の育成指導を行う。

(2) 第44回釧路湿原マラソンの開催（平成28年7月31日）

老若男女各人の体力に応じたコース（マラソン：30km・10km・3km・親子3km、ウォーク：30km・15km）を設定している。

平成14年度より、市民はもとより全国から多くの愛好者に参加してもらえるよう、観光面でも釧路をPRできる釧路湿原内をコースとし、30kmマラソンと30kmウォークを新設した。さらに、平成17年度には要望の強かった15kmウォークを新設した。

ア 年度別参加者数

年 度	26	27	28
マラソン	3,580人	3,399人	3,082人
ウォーク	518人	471人	349人

(3) 第11回全日本少年アイスホッケー大会（平成29年3月25日～29日）

（一財）地域活性化センターが支援する「スポーツ拠点づくり推進事業」として、平成18年度より27年度までの10年間を本市で開催し、平成28年度より新たに「スポーツ拠点づくり自立促進事業」として、第11回大会を開催した。

本市はじめ、全国各地から選抜された22チームの選手385名と監督・コーチ、その他父母や関係者を含め、約450名の参加があった。

予選リーグ及び決勝トーナメントについては試合数を多く設定し滞在型の事業構築とし、大会参加選手から各種目毎（フット・バックスピードスケート、ハードショット、ブレイクアウェイ、ファステスケター）にスキルチャレンジを開催し、選手達から非常に喜ばれる大会となった。

年 度	26	27	28
参加選手数	399人	399人	385人

4 スポーツ活動の促進と優秀選手の育成・強化

(1) スポーツ関係団体の育成強化

ア スポーツ同好グループの育成

イ 競技スポーツ団体の育成と競技力向上

- ウ 各種スポーツ指導者講習会の開催
- エ スポーツ少年団の育成と拡大
- (2) スポーツ団体の運営補助及びスポーツ振興助成条例に基づく助成金の交付
 - ア スポーツ団体運営補助
 - イ 全道、全国規模の大会開催助成（釧路市開催の場合）
 - ウ 全道、全国、国際大会出場派遣助成
 - エ 講習会開催助成
- (3) 釧路市体育祭の開催
 釧路市体育協会との共催で、秋季、冬季の2回開催している。
 平成28年度実績 34種目 7,887名参加
- (4) 釧路市スポーツ賞・釧路市スポーツ奨励賞
 本市のスポーツ普及、振興に特に貢献したと認められる者及びスポーツの優秀な成績を収めた者を顕彰している。

◎近年の受賞者

区 分	釧路市スポーツ賞	釧路市スポーツ奨励賞
26年度	野田 昇 (ソフトボール)	釧路西部アイスホッケー部 (アイスホッケー) 村岡 柊有 (陸上競技)
27年度	山田 凌平 (剣道) 板本 猛 (カーリング・ラジオ体操 ・ボート・社会体育) 故須貝麻里子 (フィギュアスケート)	釧路市立鳥取中学校アイスホッケー部 (アイスホッケー) 竹中 星奈 (アイスホッケー)
28年度	故横地敏光 (体操・陸上競技) 岩渕 敏行 (スケート)	武修館高等学校アイスホッケー部 (アイスホッケー) 北海道釧路北陽高等学校サッカー部 (フットサル)

5 指導者の確保と指導体制の確立

- (1) 釧路市スポーツ推進委員
 本市におけるスポーツの振興のため、市民に対し、スポーツ実技指導やスポーツに関する指導助言を行う者として釧路市スポーツ推進委員を委嘱している。本市の体育・スポーツ普及振興事業の企画に参画し、その推進役として活動するほか、地域スポーツ活動のための協力者の発掘と指導、助言を行っている。
 平成28年度 33名
- (2) 釧路市地域スポーツリーダーの配置
 コミュニティスポーツの普及振興のため、地域住民のうちスポーツに理解があり、熱意のある者を、釧路市地域スポーツリーダーとして委嘱している。
 平成28年度 47名
- (3) 釧路市スポーツ指導団体
 体育、スポーツ、レクリエーションの指導、助言のできる指導者を登録し、地域住民や職場、サークル等の要請により派遣している。
 平成28年度末現在 32種目 694名登録

6 体育施設の活用

地域におけるスポーツの普及と学校体育施設の有効活用を図るため、小・中学校の体育施設を一般市民に開放している。自主的スポーツサークルに対する団体開放と地域スポーツの拠点として開放する地域開放がある。

平成28年度開放実績

屋内体育館 小学校30校（廃校施設含）、中学校14校
 グラウンド（夜間） 小学校1校、中学校1校
 開放日数 5,352日 延 69,173名利用（団体開放 29,306名、地域開放 39,867名）

7 スポーツ合宿の誘致

各種体育施設の有効活用と地元競技者の技術力の向上を図るとともに、交流人口の拡大による地域活性化に資するため、本市の地域特性である夏季の冷涼な気候などをアピールしながら、合宿誘致推進委員会との連携のもと、スポーツ合宿の誘致活動を行っている。

(1) 平成 28 年度の状況

ア スポーツ合宿誘致推進委員会の開催（6月10日）

イ 合宿来訪団体数 44 団体 1,288 名

（アイスホッケー 32 団体、スピードスケート 3 団体、フィギュアスケート 2 団体、硬式野球 1 団体、陸上競技 4 団体、ショートトラック 2 団体）

ウ 釧路市オリンピック・パラリンピック合宿誘致スーパーバイザー協議会の開催

（4月25日、1月19日）

(ア) 情報収集及びPR活動

(イ) ナショナルチーム等の合宿受入

（マラソン男子ナショナルチーム、韓国女子アイスホッケーナショナルチーム）

(2) 年度別状況

年 度	26	27	28
種目数（種目）	6	8	6
団体数（団体）	53	45	44
人 数（人）	1,378	1,206	1,288

国体推進室

(平成29年4月1日 新設)

1 第74回国民体育大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会の開催

(1) 大会概要

- ア 主 催 (公財)日本体育協会・文部科学省・北海道
(公財)日本スケート連盟・(公財)日本アイスホッケー連盟・釧路市
- イ 会 期 平成31年1月下旬(5日間)
- ウ 会 場
- (ア) 開始式 未 定
- (イ) 競 技 釧路市柳町スピードスケート場
釧路市春採アイスアリーナ
日本製紙アイスアリーナ(釧路アイスアリーナ)
釧路市柳町アイスホッケー場
- (ウ) 表彰式 未 定
- エ 競技種目 スピードスケート、フィギュアスケート、ショートトラックスピードスケート、
アイスホッケー

(2) 開催決定までの経過

平成27年	1月28日	釧路スケート連盟及び釧路アイスホッケー連盟から、釧路市長へ国民体育大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会の釧路市誘致について要請、誘致活動を開始する。
	5月30日	北海道スケート連盟理事会・評議員会において、国民体育大会冬季大会スケート競技会の釧路市誘致について承認される。
	8月27日	日本体育協会国体委員会において、平成31年の冬季大会の全競技の開催を北海道に打診したことが報告される。
	9月19日	北海道アイスホッケー連盟理事会において、国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会の釧路市誘致について承認される。
	10月29日	釧路市長、釧路スケート連盟会長、釧路アイスホッケー連盟会長の3者連名により、北海道知事及び北海道体育協会会長のそれぞれに平成31年の第74回国民体育大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会の開催要請書を提出する。
平成28年	11月9日	日本体育協会理事会において、北海道が第74回国民体育大会冬季大会の開催地として正式決定され、スケート競技会・アイスホッケー競技会の釧路市開催が決定する。
平成29年	4月1日	釧路市教育委員会生涯学習部に国体推進室を設置し、専任職員4名が発令される。

(3) 準備概要

- ア 釧路市実行委員会の設立準備及び運営
- イ 北海道、中央競技団体等との連絡調整
- ウ ホームページ等を活用した広報活動
- エ 関係団体と連携した歓迎体制の構築
- オ 各競技会場の準備計画の策定
- カ 先催地の開催準備状況等の調査研究

博物館

1 沿革

昭和11年7月14日 初代館長片岡新助氏が収集した鳥獣類剥製、考古資料を柱に「釧路市立郷土博物館」として開館した。

昭和58年11月3日 全面移転改築して、「釧路市立博物館」に改称、開館した。

2 施設の概要

(1) 所在地 釧路市春湖台1番7号

(2) 竣工年月日 昭和58年6月30日

(3) 総事業費 1,911,326千円

(4) 規模 鉄筋コンクリート造 地下1階 地上4階

1階 1,500.10㎡、2階 886.75㎡、3階 571.17㎡、4階 755.79㎡、
塔屋 145.65㎡、地下 442.30㎡

[主室面積]：展示室 1,162.88㎡、特別展示室 97.95㎡、講堂 165.89㎡、
市民研究室 21.84㎡、研究室 66.37㎡、工作室 103.78㎡、収蔵室 412.09㎡、
事務室 86.63㎡

[収容能力]：展示室 600人、特別展示室 30人、講堂 120人、市民研究室 10人、
会議室 25人

3 常設展示

- | | | | |
|---------|--------------------|----|--------|
| (1) ホール | ・マンモス | | |
| (2) 1階 | ・地質、植物、動物、昆虫、鳥類、魚類 | 合計 | 2,263点 |
| (3) 2階 | ・考古、歴史 | 合計 | 1,692点 |
| (4) 4階 | ・アイヌ民族、タンチョウ、展望室 | 合計 | 960点 |

4 収蔵資料

考古、民族、歴史、動物、植物、地質、産業資料、美術工芸 合計 146,745点

5 教育普及事業

- (1) 特別展示 ハーバリウム霧多布、私の博物館「秋元亮太写真展・春採湖歳時記」、知られざる釧路湿原、タンチョウイラスト展、釧路・根室の簡易軌道、釧路の化石、巡回展「道東の博物館園が選ぶイチオシの資料・風景」、まちなか企画展・スタンプラリー、移動博物館
- (2) 講演・講座 北海道の将来をささえる森づくりを学ぼう、生物談話会講演会、NHK番組で振り返る「簡易軌道と酪農の記録」、簡易軌道と鉄道遺産、酪農・乳業と簡易軌道講演会、博物館学芸員トーク、展示解説「ようこそ釧路へ」、植物の名前調べ方講座、おひさま夏休み、博物館の展示を作ろう、現場で学ぶ「林業基礎講座」、現場で学ぶ「石炭基礎講座」、エゾシカまるわかり講座
- (3) 観察会 ハーバリウム霧多布、春採湖畔探鳥会、春採湖畔草花ウォッチング、しらべてみよう春採湖の昆虫、音別町遺跡探訪会、初夏の探鳥会、歴史探訪会「まちなみ散歩」、じっくり観察会釧路湿原の野鳥、オンネトージオツアー、釧路湿原の「スゲ」観察会、釧路・足寄合同化石観察会、夏休み昆虫観察会 in 動物園、釧路・根室の簡易軌道バス見学会、春採湖畔冬のいきもの観察会
- (4) 体験学習 博物館で遊ぼう、堅穴住居で屋根ふき体験、夏休み親子土器作り教室、化石レプリカ教室、おそなえもちをつくろう、まが玉をつくろう、化石クリーニング教室
- (5) 出版物 館報、研究紀要、博物館解説シリーズ、総合案内書、展示解説冊子

(6) その他 夏休み自由研究相談所、堅穴まつり、第27回博物館まつり、学芸員展示解説

6 調査研究事業

- (1) 春採湖ヒブナ生息等調査
- (2) キタサンショウウオ生息調査
- (3) 学芸員個別調査（貝化石、地域生活史、地域昆虫相、地域産業史、植物の生態・分類、魚・両生類の生態、鳥類の生態）
- (4) その他学術調査

7 連携・協力

釧路市立博物館友の会、日本野鳥の会釧路支部、NPO法人タンチョウ保護研究グループ、太平洋炭砒管理職釧路倶楽部、早稲田大学文学学術院嶋崎研究室、産炭地研究会、NPO法人環境把握推進ネットワークPEG、NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト、国立科学博物館（S-Net関連）、北海道大学植物園

8 入館者状況

年 度	26	27	28
人 数	22,628人	25,449人	27,591人

埋 蔵 文 化 財 調 査 セ ン タ ー

1 施設の概要

- (1) 所在地 釧路市春湖台1番7号
- (2) 建築年月日 昭和51年10月5日着工 昭和52年10月4日開設
- (3) 総事業費 165,000千円
- (4) 規模 鉄筋コンクリート造 3階建 973㎡
収蔵展示室、保存処理室、収蔵室、会議室、整理室、研究室、暗室、写場室、管理作業員室

2 事業の概要

釧路市内には、現在4カ所の国指定史跡と1カ所の市指定史跡を含む137カ所の埋蔵文化財包蔵地がある。当センターでは、これらの埋蔵文化財の保護・保存を図るとともに、開発行為による緊急発掘調査を実施している。

また、埋蔵文化財知識の普及・啓発のための遺跡探訪会、遺跡発掘見学会、遺跡発掘報告会なども開催している（博物館のページで詳細を記載済み）。

発掘された遺物は整理作業後に収蔵庫に保管し、その代表的なものについては、収蔵展示室において一般に無料公開（9時30分～17時）している。

3 平成28年度事業

- (1) NHK地上デジタル放送所整備工事用地内工事立会調査
- (2) 「まちなか企画展－こうこうdeこうこー」開催
- (3) 文化財パトロール受託（北海道教育庁）

動物園

1 建設の経過

第2次釧路市総合計画（昭和46年～55年）の中に、大規模レクリエーション緑地計画として総面積570haに及ぶ「山花公園」構想が搭載され、その中心施設として動物園の建設が位置づけられた。昭和48年、工事に着手し、広大な用地（47.8ha）を持つ日本最東端の動物園として、昭和50年10月1日開園した。

当初は、北国の自然環境を活かし寒帯系動物を中心とした北方動物園として構想されたが、市民要望から熱帯動物舎も建設された。その後は猛獣舎や類人猿舎を整備したほか、釧路市動物園の特徴的な取組である、ふるさとの動物の展示飼育に力を注ぎ、「ヒグマ牧場」や「ハクチョウ池」、「木道散策路」、「ふくろうの森」など「北海道ゾーン」として整備を進めてきた。

一方、道東の野生動物保護の中心施設として、また周辺環境を生かした環境教育の拠点としての役割も担っている。

2 概要

- (1) 位 置 釧路市阿寒町下仁々志別11番
- (2) 面 積 47.8ha（タンチョウ保護増殖センターを含む。）
- (3) 飼育動物数 平成29年3月31日現在
 - ア 哺乳類 28種 207点
 - イ 鳥 類 32種 150点
 - 計 60種 357点
- (4) 施設概要
 - ア 管理施設 31棟
 - イ 動物舎 34棟
 - ウ 遊戯施設
 - (ア) 大型 1基（大観覧車）
 - (イ) 中型 3基（アストロファイター、クリスタルゾーン、チェアタワー）
 - (ウ) 小型 6基（アポロ2000、ティーカップ他）
 - (エ) 硬貨投入式（A）（メロディーペット他）
 - (オ) 硬貨投入式（B）（バッテリーカー他）
- (5) 開園期間 通年開園
(休園日：12月～2月までの間の12月23日を除く毎週水曜日及び12月29日～1月2日)

3 入園料金

区 分	入園料（高校生以上）	団体入園料	通年入園料
金 額	570 円/人	460円/人	1,030 円/人

※団体は有料入園者の合計が15人以上

4 入園状況

年 度	有料入園者数（人）	入園団体数 （団体）	無料入園者数（人）	総入園者数（人）
26	78,941	114	58,853	137,794
27	90,171	139	65,204	155,375
28	67,746	103	51,296	119,042

※小中学生は無料入園者数に集計している。

5 タンチョウ保護増殖センター

特別天然記念物タンチョウは、官民一体となった保護の成果により、生息数は回復しているが、主な生息地である釧路湿原の環境は、開発などの影響で未だ悪化しており、タンチョウ個体群の安定には、なお多くの課題が残っている。

当市は、当初は釧路市丹頂鶴自然公園において保護増殖を図ってきたが、施設の狭あい化及びジェット機就航による環境悪化等から、釧路市動物園内に文化庁の補助事業として、昭和48年度にタンチョウ保護増殖センターの建設に着手し、昭和57年度から供用を開始した。

増殖事業は一定程度軌道に乗ったことから、一部を市民に公開し、成果を公表している。

- (1) 位 置 釧路市動物園内
- (2) 面 積 25.8ha
- (3) 事 業 費 257,462千円（昭和48～56年度）
- (4) 施 設 概 要
 - ア 管 理 棟 406.62㎡ 1 棟
 - イ 繁殖ケージ 720㎡ 7カ所
 - ウ 保護ケージ 3,500㎡ 4カ所
- (5) 保護・飼育数 7羽

6 釧路市丹頂鶴自然公園

特別天然記念物であるタンチョウと人間のふれあいの場である釧路市丹頂鶴自然公園は、昭和33年に開園し、昭和62年度から63年度に施設の全面改修を行った。市内有数の観光施設として年間5万人を超える来園者がある。

同公園におけるタンチョウの観察、給餌業務から得られた知見は、絶滅の恐れがあるとされるタンチョウの種の保護に役立てられている。

- (1) 位 置 釧路市鶴丘112番地
- (2) 面 積 97,362㎡
- (3) 施 設 概 要
 - ア 駐 車 場 5,800㎡
 - イ 放飼場柵 2,478m
 - ウ 園 路 460m
 - エ 管 理 棟 473㎡ 1 棟
 - オ 便 所 22㎡ 1 棟
- (4) 開園期間 通年開園（休園日12月31日～1月3日）
- (5) 飼 育 数 20羽
- (6) 入園料金

区 分	金 額	
	一 般	団 体
		15人以上
一 般	470円/人	376円/人
小学生、中学生	110円/人	88円/人

※一般（高校生以上）

- (7) 入園状況

年 度	有料入園者数（人）			入園団体数 （団体）	無料入園者数 （人）	総入園者数 （人）
	一 般	小学生、中学生	計			
26	62,693	3,243	65,936	972	1,871	67,807
27	69,982	3,633	73,615	1,012	1,723	75,338
28	74,872	3,162	78,034	770	1,819	79,853

7 釧路市阿寒国際ツルセンター

タンチョウ保護のための飼育研究、行動・生態学的研究および教育普及を目的に、平成8年、冬季給餌場に隣接した地に釧路市阿寒国際ツルセンターを設立した。

屋内展示施設では、映像や剥製、模型等を通してタンチョウの生態や習性、過去から現在までの保護活動をわかりやすく解説している。また屋外には、屋外飼育展示場のほか、上阿寒農村公園やビオトープを付設している。

また、分館のタンチョウ観察センターは11～3月の冬季間に開館しており、市民等が、この時期に給餌場に集まってくるタンチョウを観察してその理解を深めることで、タンチョウ保護を一層進めようとするものである。

(1) 位置 釧路市阿寒町上阿寒23線40番地

(2) 面積 72,604m² (タンチョウ観察センター、ビオトープ及び上阿寒農村公園を除く)

(3) 施設概要

ア 教育展示センター	1,181.7 m ²
イ 研究センター	298.9 m ²
ウ 野外展示場	5,950.0 m ²
エ 観察センター (分館)	189.5 m ²
オ 上阿寒農村公園	16,700.0 m ²
カ ビオトープ	30,000.0 m ²

(4) 開館期間・時間

本館	通 年	9時～17時
分館	11～1月	8時30分～16時
	2～3月	8時30分～16時30分

(5) 飼育動物数

タンチョウ 4羽、 マナヅル 1羽

(6) 入館料金

区 分	金 額		
	個人	団体 (15人以上)	年間券
大 人	470円/人	350円/人	3,550円/人
小 人	240円/人	170円/人	1,770円/人

※大人 (高校生以上)、小人 (小中学生)

(7) 入館状況

年度	有料入館者数 (人)								無料 入館 者数 (人)	総入館 者数 (人)	
	個人		団体		年間券			5 5 パス			
	大人	小人	大人	小人	大人	再入館	小人	購入者			再入館
26	14,636	729	8,381	1,037	82	1,130	1	1,333	1,102	2,233	30,664
27	16,881	835	8,623	241	91	1,317	0	1,590	2,014	2,167	33,759
28	16,584	970	7,493	403	59	698	0	950	2,652	3,152	32,961

阿寒生涯学習課

1 社会教育事業

- (1) 少年教育の振興
 - ア 学社協働事業一夏休み・冬休み自由研究作品展(2回)
 - イ チャレンジスクール(小中学生対象)
 - ウ 宿泊体験学習(小中学生対象)
 - エ 青少年芸術劇場(小学生対象)
 - オ 阿寒町少年少女交流子ども下の句かるた大会の開催(阿寒町青少年健全育成連絡協議会と共催事業)
- (2) 成人・女性・高齢者教育の振興
 - ア 阿寒シルバー大学(4講座:教養、芸能、工芸、健康)の開講(年46回)
- (3) 芸術・文化活動の振興
 - ア 阿寒町総合芸術祭 ステージ部門・展示部門の開催(実行委員会主催)
 - イ 公民館ロビーコンサートの開催(実行委員会主催)
- (4) 文化財関連事業
 - ア 郷土学習の支援(郷土資料の解説等)
 - イ タンチョウ越冬分布調査協力
- (5) 公民館・図書室活動
 - ア 釧路・根室地区公民館共同事業巡回展「釧根「絵手紙」移動展」の開催
 - イ 釧路・根室地区公民館共同事業巡回展「釧根「二科会写真展」」の開催
 - ウ 公民館分館事業(家庭教育・学校開放等)
 - エ 移動図書館バス「よむよむ」の運行
 - オ 地域巡回文庫
 - カ 図書館のしごと体験の開催
- (6) 社会教育関係団体の振興支援
 - ア 阿寒町青少年健全育成連絡協議会の活動支援
 - (ア) 阿寒地区町内会青少年育成部の支援
 - (イ) 阿寒町少年少女交流子ども下の句かるた大会の開催
 - イ 釧路市文化団体連絡協議会阿寒支部の活動支援
 - (ア) 阿寒町総合芸術祭の運営及び参加
 - ウ 公民館ロビーコンサート実行委員会への活動支援

2 阿寒町公民館

- (1) 施設の内容
 - ア 所在地 釧路市阿寒町中央2丁目4番1号
 - イ 建築年月日 昭和62年3月25日
 - ウ 主な施設 大ホール、視聴覚室、研修室、和室、調理実習室
- (2) 年度別利用状況

年度	26	27	28
件数	1,655件	1,675件	1,714件
人数	25,675人	27,052人	27,322人

3 社会体育事業

- (1) 学習機会の提供
 - ア 阿寒ウルトラオリンピック2017(スポーツ少年団と共催事業)
 - イ 冬子どもスポーツフェスティバル(スポーツ少年団及び健全育成連絡協議会と共催事業)
 - ウ サマーキャンプ(スポーツ少年団と共催事業)

- エ 小学生水泳教室
- オ 小学生スケート教室
- (2) 生涯スポーツ普及事業
 - ア 総合型地域スポーツクラブ「あかんスポーツクラブ」の支援
 - イ 学校開放事業（小中学校4校の体育館を一般市民に開放する。）
- (3) 釧路市スポーツ推進委員（阿寒地区12名）
 - ア 阿寒地区開催事業の企画・立案・運営・指導に参画
 - イ 地域スポーツ活動の指導及び助言
 - ウ 資質向上のための研修会への派遣
- (4) スポーツ団体の振興支援
 - ア 釧路市体育協会阿寒支部の活動支援
 - (ア) 阿寒ナイターリーグソフトボール大会
 - (イ) 阿寒ミニバレーボール大会
 - (ウ) 釧路市体育協会阿寒支部長杯ナイターリーグ長靴アイスホッケー大会
 - イ 釧路市スポーツ少年団阿寒支部の活動支援
 - (ア) 奉仕活動
 - (イ) 地区交流会
 - (ウ) スポーツ少年団体力テスト
 - (エ) スポーツ少年団管内交流会
 - (オ) 釧路管内指導者・母集団交流研修会への参加

4 社会体育施設利用状況

(1) 阿寒町総合運動公園

施設名	26年度	27年度	28年度
野球場	4,123人	3,464人	5,579人
多目的広場	867人	2,320人	4,530人
多種目競技広場	441人	291人	190人
阿寒町スポーツセンター	17,705人	18,069人	19,367人
アリーナ	14,364人	14,762人	16,351人
トレーニングルーム	658人	721人	862人
プール	2,683人	2,586人	2,154人

(2) 阿寒湖畔スポーツ広場

施設名	26年度	27年度	28年度
スケートリンク	1,453人	1,166人	1,321人
阿寒湖畔トレーニングセンター	2,801人	3,341人	3,457人
プール	729人	856人	830人
トレーニング室	2,072人	2,485人	2,627人

5 マリモ研究室

- (1) 阿寒湖のマリモの保全・再生事業
 - ア マリモ保全推進委員会事務局業務
 - イ マリモの野外育成試験
 - ウ マリモ生育地で急増する水草への対策
 - エ 市民参加型教育プログラム及び指導者育成プログラムの検討
- (2) 調査研究及び保護活動
 - ア マリモ保護研究事業
 - イ 共同研究（北海道大学、北見工業大学、神戸大学、神奈川大学）
 - ウ 文化財パトロール受託（北海道教育庁）
 - エ 保護活動

- (ア) マリモ生育地の定期巡視
 - (イ) チュウルイ湖岸に打ち上げられたマリモの保全作業
 - (ウ) マリモの盗採防止活動
- (3) 教育普及活動
- ア 講演（マリモ祭りセミナー他）
 - イ 観察会・講座（マリモ祭り、阿寒湖小学校、阿寒湖中学校他）
 - ウ 教育支援等（北海道大学理学部巡検、JICA青年研修他）
 - エ 阿寒湖畔エコミュージアムセンター共催事業（ペンケトー・パンケトー自然探勝会他）
 - オ マリモ発見命名120周年記念事業（平成29年度新規事業）
- (4) その他
- ア 論文・報告書発表、新聞・インターネット等への普及記事掲載等
 - イ 報道機関への取材協力並びに出版等文化事業への支援等
 - ウ 阿寒湖畔エコミュージアムセンター展示水槽及び飼育生物の維持管理

音別生涯学習課

1 社会教育実施事業

(1) 高齢者学級「音老大学」

健康で明るく生きがいのある老後を送るため、その年齢にふさわしい社会的能力や知識を習得するとともに、相互の交流を図り、また、高齢者のグループ活動を促進することを目的として開設した。

ア 開設期間 平成28年4月～平成29年3月

イ 開設事業 6月学習会（28年度開講式）

10月移動学習会

12月学習会

3月学習会（28年度閉講式）

(2) 社会教育講座の開催

生活技術の習得とともに、豊かな精神生活の創造を促進し、地域の学習活動の振興を図ることを目的に開設した。

ア クラフト手芸講座（10月4日開催）

イ アイスフラワージェルボックス講座（10月13日開催）

(3) 子ども1日体験司書（夏休み・冬休み）

小学校3年生から中学生までの3名1組のグループで、司書業務や読み聞かせ等の体験・奉仕活動を実施した。

ア 期 日 8月3日～5日（8人）、1月10日～12日（8人）

イ 参加者 延べ16名（小学生）

(4) 芸術・文化・文化財関連活動の振興

ア 音別町総合文化祭の開催（展示・発表部門）

イ 音別町郷土芸能保存会への支援

(5) 芸術・文化鑑賞機会の提供

ア 平成28年度釧路・根室地区公民館共同事業 釧根「絵手紙」移動展の開催

(ア) 期 日 10月19日～23日

(イ) 会 場 音別町ふれあい図書館ロビー

(ウ) 鑑賞者数 110人

2 音別町体験学習センター（こころみ）

(1) 施設利用状況

	26年度		27年度		28年度	
	日帰り	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り	宿泊
件数(件)	40	53	52	54	45	46
人数(人)	830	2,216	927	2,008	974	1,557

(2) 主催事業開催状況

ア 味噌づくり体験（2月17日～19日開催）

3 音別町文化会館

(1) 施設利用状況

年度	26	27	28
件数(件)	124	107	146
人数(人)	3,777	3,916	5,299

4 スポーツ実施事業

(1) 主催事業

- ア 子ども水泳教室（8月2日～4日）
- イ 第32回音別町ミニバレーボール大会（10月12日開催）
- ウ 第31回ファミリースポーツ交流会（10月30日開催）
- エ シニア軽スポーツ教室（11月27日開催）
- オ 第30回親子スケート教室（1月10日～11日）
- カ 子どもカーリング教室（1月12日～13日）
- キ 第34回音別町カーリング大会（1月13日開催）
- ク 子どもスポーツ教室（3月4日開催）

(2) 釧路市体育協会音別支部～7加盟団体

- ア 町内対抗パークゴルフ大会（6月25日開催）
- イ 町内対抗軽スポーツ大会（9月8日開催）
- ウ 町内対抗ミニバレーボール大会（11月17日開催）
- エ 町内対抗カーリング大会（1月20日開催）

(3) 釧路市スポーツ少年団音別支部～1少年団

- ア 音別支部宿泊研修交流会
 - (ア) 期 日 2月4日～5日
 - (イ) 参 加 団員他24人

5 社会体育施設

(1) 施設利用状況

施 設	区 分	26年度	27年度	28年度
温 水 プ ール	有 料 (人)	553	408	280
	無 料 (人)	328	408	354
	合 計 (人)	881	816	634
スケートリンク	スピードスケート (人)	1,598	1,623	1,090
	カーリング (人)	157	284	357
	合 計 (人)	1,755	1,907	1,447
野 球 場	中学生以下 (人)	797	1,956	1,227
	一 般 (人)	23	60	1,675
	合 計 (人)	820	2,016	2,902
パークゴルフ場	各種大会 (人)	11回 349	11回 379	7回 312
	一般利用 (人)	17,365	16,889	15,905
	合 計 (人)	17,714	17,268	16,217